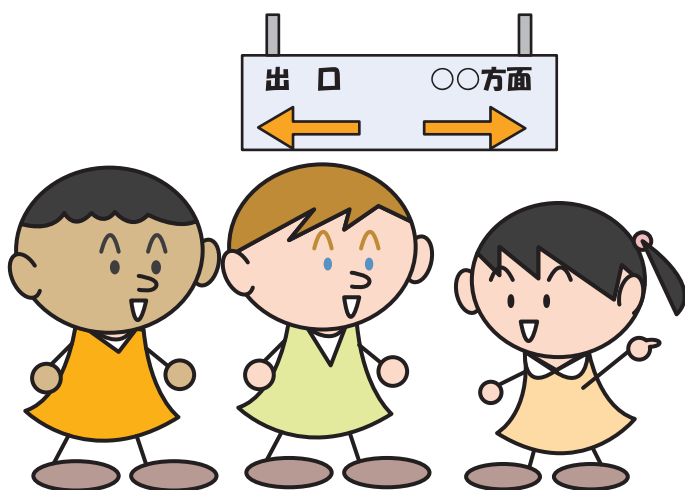


がい 外国人



国際化が進み、外国人の人口も増加しています。公共交通施設などでは、施設等の案内に外国語が併記されるようになってきましたが、多くの人が集まるホールや集会所、生活に身近な病院などの施設でも、外国語の併記があると便利です。

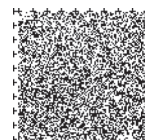
また、外国人も参照するホームページなどには、多言語翻訳機能やルビがあると便利です。生活に身近な情報を記載した冊子やチラシなども、外国人の利用が想定される場合は、配慮が必要です。

がいに 外国人の情報の入手方法は？

- 同じ国から日本に来ている友人や近所の日本人から情報を入手します。
- 町田国際交流センターなどの外国人支援団体から情報を入手します。

じょうほうを 入手するのに どんな問題がありますか？

- 言葉、文化、生活習慣の違いにより情報がうまく伝わらないことがあります。
- 日本語の理解の状況によって、得られる情報の範囲が異なります。





しょう しゃ 障がい者 (ろう者、難聴者、中途失聴者)

ちょうかくしょう 聴覚障がいについて

「聞こえない」「聞こえにくい」という障がいは、主に周りの人とのコミュニケーションをはじめ、生活の中で、「音」や「声」による情報が伝わらないために、不自由や不便なことがいろいろあります。

障がいは、次の三者に分けられます。

- 生まれつき、あるいは幼少時から全く聞こえない人、または重度難聴の人もありますが、ろう者という言い方もあります。手話を中心としてコミュニケーションする人が多いです。自分で話すことができる人もいますが、発声が明瞭でない人もいます。

- 難聴者の多くは、自分で話すことができます。補聴器を使えば、ある程度聞こえを補うことはできますが、万能ではありません。

補聴器をつければ、「聞こえ」が改善される人もいます。補聴器をつけると、「音」として聞こえるようになりますが、「言葉」としては聞き取りにくいのです。相手を見て、言葉をはっきりと話すように心がけてください。

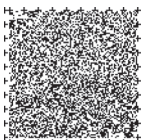
大きな音に対する耳の適応性が低いため、「大きな声」では話さないでください。

- 聞こえる体験を持ってから、聞こえなくなった人を中途失聴者と言います。

言葉を覚える時期には聞こえていたので、普通に話すことはできます。しかし、難聴者同様に、自分の声を自分の耳で確認できないために、声の大きさの調整がしにくいこともありますし、明瞭な発音を保ちにくくなる場合もあります。



◀ 「ありがとう」の手話



き 聞こえない人とのコミュニケーション方法は？

- 耳で言葉を聞くことができない、あるいは聞きにくいために、補聴器や人工内耳を利用する方法もあります。目で補うコミュニケーション方法を一緒に使っている人もいます。例えば、「筆談」や「手話・指文字」、「空文字」、「身振り」のほか、口の動きで言葉を読み取る「読話」などがあります。暗いところでは手話や口の動きを読み取れません。明るいところや見えやすいところで、コミュニケーション方法を工夫して話しましょう。
- 「手話」は第一言語としている聞こえない人にとって、とても大切な言葉です。「母語」とも言われています。
- 難聴者や中途失聴者のなかには、手話がわからない人もいます。その場合には、「筆談」が確実に伝えあえる方法となります。
- 聞こえない人と話すときには、相手が一番わかりやすい方法は何か、そして、内容を確認しながら話をします。手話には表情をつけて話しましょう。



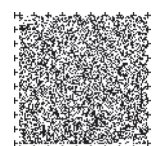
じょう 情報を入手したり、社会参加したりするのに、

- 「聞こえない人」は、音声情報を入手できません。テレビには、字幕放送番組が増えています。電車内の緊急情報の字幕対応も進んでいますが、情報の内容が限られているため、とても不安です。
- 防災無線が聞こえず、台風や地震などの時は、とても不安です。

もんだい どんな問題がありますか？



- 広報でお知らせしている行事などはFAXやメールでの問い合わせができるようになりましたが、申し込みができる行事は、まだ限られています。
- 手話通訳や要約筆記がつかないと、市の行事や催し物に参加しても、楽しめません。
- 市役所の手話対応窓口（障がい福祉課）も現在週1日だけで、いつでも気軽に行けません。



こんな対応や機器があると便利だなぁ！！

講演会や催し物への手話通訳者・要約筆記者の派遣

- さまざまな講演会や催し物への手話通訳者と要約筆記者の派遣が可能になることで、社会参加の機会が広がります。

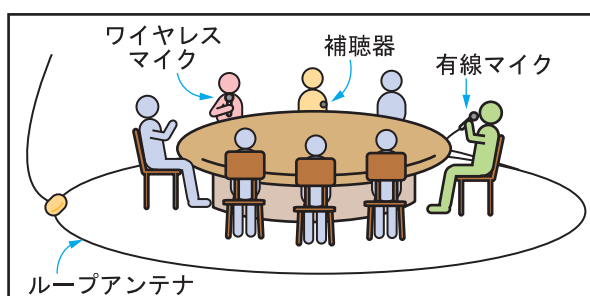


- 要約筆記には、その場の話の内容を文字で伝える方法が2種類あります。ひとつはスクリーンに映し会場全体に情報を伝える全体投影、もうひとつは個人（1～2人）の隣で情報を伝えるノートテイクです。



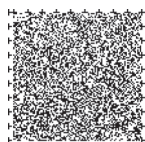
- 文字は手書きまたはパソコンで表します。手書き要約筆記ではロールや用紙にペンで書いて伝えます。パソコン要約筆記では入力した文字をスクリーンや画面に映し出します。

磁気ループ（補聴器誘導システム）



▲ 町田市議場
磁気ループが設置されている

- 講演会や会議等に参加しやすい環境をつくるためにマイクからの音声を直接、補聴器や受信機に伝えることで、雑音の少ない音声を提供することができます。会議などにも使える、持ち運びができるタイプもあります。



耳マークの設置や手話対応バッジ



● 筆談可能な場合、耳マークを設置すると、聞こえない人は安心して筆談を申し出ることができます。

● 手話対応可能な場合は、手話マークやバッジで明示すると、手話中心の会話をしている人は安心して話せます。



▲ 手話マークの例

電光掲示板の設置

● 病院、公共施設、駅や電車、バスなどの中での情報案内に役立ちます。緊急時の情報伝達にも役立つように研究が進んでいます。



▲ 小田急線車内の表示



聴覚障がい者からの声

- 広報や市発行の冊子に F A X 番号・メールアドレスの記載があると助かります。さまざまな行事・法律相談・休日診療などに、F A X やメールで問合せや申し込みができるようにしてほしいです。
- 社会参加を促進するために、手話通訳者と要約筆記者の派遣範囲を文化・教養活動などにも拡大してほしいです。
- 多くの利用要望に応えられるように、手話通訳者・要約筆記者の登録者が増えてほしいです。

